ファシリテーション

～未来へつなげ！酪農教育の輪～

【分野：Ⅲ類】

北海道名寄産業高等学校
酪農科学科3年 木村 瑛

「毎日野菜を売ったり、牛の世話をしたりする仕事とは違い、皆さんは知性が高い」。これはある県知事が、新入職員への訓示で放った一言です。私の憧れの職業「酪農」、それに従事している両親を見下すようなこの一言。私はとても腹立たしい気持ちになりました。

私の両親は酪農業を経営しており、朝早くから夜遅くまで管理している乳牛、一頭一頭、真摯に向き合っている姿を幼い頃から見てきました。朝起きて牛舎に向かう生活、両親とともに乳牛と向き合う環境は、私にとっての日常でした。

ある日、いとこが私の家の牛舎に遊びに来た時、「酪農って、キツイんでしょう」や、「汚れたりするのに手伝っていて偉いね」と口にしていました。その言葉を聞いた瞬間、他人から見えている酪農はほんの一部であり、私の日常は、他人からすれば非日常であるということに気がきました。仔牛の出産、管理作業、搾乳など、命と向き合い、命をいただくという素晴らしい「命の学び」に触れられないなんて、もったいないと感じました。

私が小学校低学年の時に、「地域探究学習」という授業で、酪農業の生産現場を訪れ、搾乳体験をしました。我が家とは違う、別の牧場での搾乳に「新鮮さ」を感じました。しかし、クラスメイトの大半は、酪農に触れたことがなく、乳牛との触れ合いや搾乳に、目を輝かせて楽しんでいました。私の日常となっていた環境で、こんなにも人を楽しませることができるのかと、私はとても感動しました。そして、私も酪農の楽しさを多くの人に伝えられるようになりたいと思い、名寄産業高校に入学しました。

1年の畜産の授業で、酪農家と教育現場が連携し、酪農を通して食や仕事、いのちの学びを支援する「酪農教育ファーム活動」を知りました。「私が今まで受けてきた教育は、全て酪農教育であった」ことに気付かされました。

2年の秋、視察研修で酪農教育ファーム認証牧場である美瑛町の「ファームズ千代田」を訪れました。事前学習でホームページを見たとき、「地域のつながりを大切にすることは、酪農教育のネットワークを拓けること」という経営者の思いを知り、とても興味を持ちました。

当日は繁殖から肥育までの一貫生産過程を見学し、昼食では牧場で生産された牛肉や乳製品を試食しました。製品一つにも、たくさんの工夫や思いが詰まっていることを知り、食の学びを深めました。その後の意見交換で、地域に根差す酪農教育活動として、地域住民を対象とした食育教室について話を聞きました。その中で、「酪農教育ファームファシリテーター」の存在を知りました。酪農教育ファームファシリテーターは、酪農に関係した教育プロ

グラムや活動をサポートする職業であり、次世代の酪農従事者を育てる役割や、生産者と消費者の間を取り持ち、生産者の思いを直接伝える架け橋という役割を担っています。

多くの人にとって非日常である酪農。生まれてきた仔牛の尊さや搾乳後の生乳の温かさ、牛乳は命のおすそ分けであること。これらの素晴らしい「命の学び」を多くの人に伝える。これが私の将来の夢です。この夢を、「酪農教育ファームファシリテーター」という道なら達成することができるかと確信しました。

私が酪農教育ファームファシリテーターとしてやりたいことが2つあります。酪農教育にICTを取り入れた「未来型酪農教育プログラム」として、一つ目は、牧場から搾乳の様子や牛舎での牛たちの様子など、酪農家の日常を発信する、オンライン授業を行います。

二つ目は、メタバース空間に設定した牧場で、搾乳や哺乳などVRを使った疑似体験学習を行います。このプログラムを実現するために、様々な業種の方と連携し、私だけでは生み出せないアイデアを形にしていきたいと考えています。

高校卒業後は、より専門的な知識と技術、幅広い視野を身に付けるため、専門学校に進学し、夢を実現するための第一歩を踏み出します。予測困難な酪農の未来においても、酪農教育ファームファシリテーターとして、乳牛と日頃から向き合ってきた私だからこそできるファシリテーション。酪農教育を多くの人に伝えるために、これからも尽力していきます。